

学位記授与番号	博 甲 第 1 号
学位の種類	博 士 (医療薬学)
氏 名	小川 壮寛
学位授与の要件	学位規則 (昭和二十八年四月一日文部省令第九号) 第四条第一項該当者
学位授与に至る経過	学位論文受理年月日 平成 27 年 12 月 10 日
	学位論文審査終了年月日 平成 28 年 2 月 22 日
	研究科委員会議決日 平成 28 年 3 月 3 日
授与年月日	平成 28 年 3 月 20 日
学位論文の題名	地域医療における保険薬局の薬診連携に関する研究
論文審査委員	教授 江川 孝 (主査) 教授 末丸 克矢 (副査)、准教授 古林 呂之 (副査)

学位論文内容の要旨

本研究では、地域医療に共同薬物治療管理（以下、CDTM）を導入し、医師の包括指示の下、薬剤師の判断により提供できる医療について検証した。まず、地域医療において保険薬局薬剤師がチーム医療の一員として提供できる業務として、地域の医療機関と保険薬局の間での地域医療型 CDTM 導入を試みた。また、小児患者への散剤調剤において、CDTM による散剤規格品（以下、規格品）の通常処方化を目的に、規格品への変更の有用性と疑義照会率の変化を検証した。さらに、地域医療型 CDTM を基盤として特別養護老人ホームにおける服薬管理への介入を試みた。次に、地域薬局と医学教育への関わりとそのあり方について、研修医および医学部学生（以下、医学生）を対象とした保険薬局実習を通して、薬剤師による医学教育について検証した。

地域医療型 CDTM を利用して、医師と保険薬局との事後報告可能な合意内容（ポジティブリスト）を作成し、これに基づく事後報告を行った。その結果、ポジティブリストに基づく薬剤師の残薬確認によって保険点数を合計 17,455 点削減した。ジェネリック医薬品使用率を上昇させた。小児患者への規格品を使用した調剤では、規格品使用を通常処方化し、用量変更・調節に係る疑義照会率を 0% まで減少させた。特別養護老人ホームにおける服薬管理では、用法を「食前」に変更することにより 77% の入所者の用法を「食前」に統一することができた。また、研修医および医学生への保険薬局実習のアンケート調査では、医学生には「衛生用品・介護用品の説明」、「保険調剤の流れの説明」、「説明の工程」を改善する必要があるとあり、医師では、「要指導医薬品・一般用医薬品の説明」、「鑑査業務の説明」、「衛生用品・介護用品の説明」、「見学時間の長さ」、「投薬業務の見学」を改善する必要があるとあった。

本研究により、保険薬局において地域医療型 CDTM の導入により、医療費の削減効果や後発品使用率の促進に非常に有益であることを明らかにした。また、処方医との合意によるポジティブリストの作成により、小児への散剤調剤において規格品の使用を可能としたほか、特別養護老人ホームにおける服薬管理への介入に非常に有益であることを明らかにした。さらに、保険薬局における薬局実習により、多職種連携のチーム医療の一端を体験することが可能であることを明らかにした。

論文審査の結果の要旨

本研究は、地域医療を担う医療機関としての保険薬局における CDTM 導入は、新規性が高く地域医療において保険薬局薬剤師が地域圏チーム医療の一員として活躍できることを示唆している。

本論文は、地域医療を担う薬剤師の職能としての展開が期待でき学位論文として高く評価できる。

上記の論文審査概要を含め、主査および副査で審議した結果は、以下の通りである。

1. 研究の背景や目的の理解: 我が国が求める地域医療における保険薬局の役割を理解し、その実現に向けた研究への着眼は高く評価される。
2. 研究課題に関する知識: 研究テーマについて日本国内のみならず、諸外国での CDTM についての知識も豊富であり、得られた知識から日本版 CDTM に着目した点は高く評価できる。
3. 研究の進め方や研究方法に関する吟味: 研究内容について包括的に同意を得るなどの配慮が必要であったが、得られたデータは匿名化されており適切に取り扱われている。
4. 実験データ、理論計算、調査などの結果についての解析: アンケート調査について医師への説明の仕方やアンケートの取り方に工夫が必要であったが、得られたデータを患者の満足度から解析している点は評価できる。
5. 得られた結果等に関する独自の考察: 保険薬局における医学教育の問題点を如何に改善するのか、具体的な考察に結び付けるアンケートが必要であったが、継続した研究が進行中であり、その成果が期待できる。
6. 参考論文の適切な引用: 適切に引用されている。
7. 論文及び口述発表の論理性: 研究成果は、疑義照会への介入から日本版 CDTM の実現に向けて論理的に展開されており、口述発表においてもその内容はしっかりと伝えられ、質疑に対しても的確に対応できていた。
8. 研究成果の社会貢献度: 地域医療での薬剤師の業務を医学教育に導入することは大変意義深い。
9. 医療の諸問題への応用: 保険薬局における CDTM 導入は、新規性は高く、高く評価される。
10. 将来への発展性: 保険薬局で取り組んでいる医学教育の改善点が抽出できており、今後の研究が期待される。

以上より、本論文は博士（医療薬学）の学位論文として適合するものと評価される。

審査結果： 合格